

～地域自治組織「ときめきの里 真砂」～

「食育」と「福祉」を軸に、
誰もが住んでいてよかったと思えるふるさとづくり

真砂地区

人口：390人

高齢化率：53.1%（平成29年11月末現在）

★地区の状況

真砂地区は益田市の中央に位置する中山間地で、菅原道真公が都落ちする際に通ったとされる日晩山^{ひぐらしやま}を背に、見渡す限り美しい田園風景が広がります。中世の時代には市の食糧基地として機能し、日晩山の伏流水と山あいならではの寒暖差により育まれた「真砂米」は、今も知る人ぞ知るブランド米として評判です。



下波田の田園風景

★地域自治組織の取組紹介

地域自治組織「ときめきの里 真砂」は、平成28年4月の設立から1年半が経過しました。組織としてはまだまだ未熟ですが、試行錯誤しながら真砂の歩みで少しずつ各種事業に取り組んでいます。

今年度は、4月に自主防災団体を立ち上げ、要援護者リストや防災マップを作成するとともに、普段の見守りなど「福祉」に重きを置いた活動をしています。4つの各部会の主な活動等は下記のとおりです。

きらめき部会…既存資源の掘り起こしと利活用を目的とし、秋の“真砂まるごとフェスタ”とあわせて「真砂米」の品評会等を実施

支え合い部会…地域全体で支え合い、老後も安心して暮らせるまちづくりを目指し、「認知症予防カフェ」等を開催

学び合い部会…住民が共に学び合い、日々の暮らしを次世代へ継承することを目的に、地区のつろうて子育て推進協議会と連携した各種取組を実施

きずな部会…次世代育成を目指し、世代間交流を目的としたラジオ体操と「朝ごはんを食べて夏バテ防止」をテーマとした事業を実施

また、会全体では、既存イベントについて、体制等の見直しを図りながら継続的な地域運営を目指しています。



益田市食生活改善推進員（真砂）による朝ごはんの提供

★地域活動交流拠点の紹介

平成29年4月に、JA真砂支所の一画を改修した地域活動交流拠点「ひら山のふもとカフェ tele-glue（てれえぐれえ）」をオープンしました。商店や飲食店がない当地区では、これまで住民が気軽に集い、語り合える場がありませんでした。そこで、全住民を対象に実施したアンケートで最も要望の多かった「飲食ができる交流拠点」の実現に向け、昨年度より取組み始め、今年度から本格的な活動をスタートしています。

施設は、レンタルキッチンを兼ね備えた15名程度が団らんでできるサロンや4畳半の畳スペース等があり、予約制で利用できるようになっています。これまで地区住民による「いちにち居酒屋」、「一品もちよりカフェ」や、他地区の団体の利用で「デコパージュ教室」、「山越え交流フェア」等を実施しました。地区内外問わず、誰でも自由な発想で多目的に利用できる場として活用して下さる方を随時募集しています。

ひら山のふもとカフェ tele-glue（波田町イ 490-1）

☆オープンカフェ（毎週火・金 9:30～11:30）

☆メニュー：ドリンクのみ100円～

※臨時休業する場合がありますので、お越しの際は事前にご確認ください。

☆施設使用料：地区内200円～ 地区外400円～（光熱費別途）

☆問い合わせ先：ときめきの里 真砂

☎ /fax 26-0002（真砂地区振興センター内）



ひら山のふもとカフェ tele-glue

二川地区

人口：205人
 高齢化率：57.6%
 (平成29年11月末現在)



★地区の状況

二川地区には、四季折々の風景や双川峡や若杉天然杉などの自然、史跡、名勝が多くあります。また、美都温泉湯元館を中心に飲食、宿泊などの施設が集まっています。国道191号線沿いには道の駅サンエイト美都もあり、県内外から多くの観光客が訪れます。

休耕田には地元企業によって美都町の特産品「ゆず」が植えられ、休耕田が徐々に農地として蘇ってきています。現在約2,000本のゆずが植えられていますが、今後5,000本を目指しています。

普段は静かな地区ですが、「美都温泉まつり」、「ほたる祭り」、「せせらぎの夕べ」、「二川地区農林業文化祭」などの季節のイベントには多くの観光客が訪れ、盛り上がりを見せます。

★「ぬくもりの里 二川」の取組

「ぬくもりの里 二川」は、平成29年4月に設立総会を行いました。地区住民の「住んで良かった」という思いが、訪れた方の「住んでみたい」につながるような二川を目指し、地域でできることを発信し、地区を訪れた方も楽しめる場を作りたいと下記の事業に取り組んでいます。

○住む人が住みやすい地域にしていく事業

二川地区自主防災組織とともに避難訓練・消火活動などを行なっています。

市内のスーパーの支援をいただき、美都町内3地区合同での買い物ツアーを月1回行なっています。

○美都温泉と連携した賑わいを創出する事業

「温泉モーニング」として、毎月第3日曜日(午前7時～9時)に美都温泉湯元館で、うずめ飯(具材の上にご飯をのせた郷土食)とコーヒーを販売しています。県外から訪れる方も多く、寒いこの季節には温かいうずめ飯が喜ばれています。また、「せせらぎの夕べ」など様々なイベントに取り組んでいます。

○小学校跡施設の有効利用につなげる事業

二川小学校の跡地では、焼き米(水に浸けた粉を大きな鍋で炒って精米した保存食)作り体験交流・施設周辺の美化・ピザ作り交流などに取り組んでいます。11月26日の農林業文化祭で石窯を初お披露目し、焼きたてピザを販売しました。12月には市内の保育園児が親子でピザ作り体験交流をしました。

焼き米作りの体験交流は、3月にしまね田舎ツーリズム親子体験キャンペーンでも実施します。

また、平成25年度に都茂小学校と統合した二川小学校の跡施設の活用を検討しています。1階を地域の人との交流拠点、2階を青少年向けの宿泊施設として活用するため、体験メニューのプログラム化・地域の協力体制づくり、運営・経営などについての協議を進めています。

○地区の特産品を創出する事業

今もなお手作りされている、おやき・こんにゃく・そば打ちなどの映像記録を行なっています。

★今後について

設立後、半年間の取組を進める中で様々な課題が見えてきましたが、少しずつ解決を目指します。そして、さらに魅力的な地区にしていくために、部会が相互に協力しながら今後も取組を進めます。



温泉モーニングの様子



焼き米作り体験の様子



石窯でのピザ作りの様子

～地域自治組織「道川地域づくりの会」～

輝け笑顔！深まれ絆！行くぞ道川！

～出会い ふれあい 助け合い 笑顔でつなぐ明日の道川～

道川地区

人口：130人

高齢化率：55.4%（平成29年11月末現在）

★地区の状況

道川地区は、益田市の南東、西中国山地に位置し、広島県と隣接する、県内でも有数の豪雪地帯です。奥匹見峡、表匹見峡といった景勝地を有し、四季折々の風情を味わう事ができ、多くの観光客にお越しいただいています。美しい自然、独自の歴史・文化が今も息づく地区です。

昨年11月、地区内外の交流の拠点として活用している「旧割元庄屋美濃地屋敷」が、国の文化審議会において登録有形文化財（建造物）に答申され、ますますの賑わいに期待が高まっているところです。



道川地区

★道川地域づくりの会の取組紹介

平成28年4月、地域自治組織「道川地域づくりの会」を設立しました。自治会をはじめ、各種活動団体のそれぞれの強みや、人と人とのつながりを活かし、次の3つの事業を柱にして「安心して暮らし続けることができる住みよい地域づくり」を進めています。

○賑わいづくり

国道191号線沿いである土地の利点を活かしたイベントの開催、田舎体験活動の推進、食事の提供、地元農産加工品の販売、情報発信等。

○ひとづくり

地区民運動会、盆踊り大会、親睦交流会などの世代間交流事業の実施。伝統芸能、食文化の継承活動等。

○暮らしの安心づくり

高齢者サロン、配食サービス、買い物バスツアーの実施。災害時避難体制の確立に向けた地域防災活動の実践等。

益田市内20地区の中で最も人口が少なく、「人手不足」が課題です。行政や関係機関、地区内の役など、ひとりひとりの負担が大きくなってきており、行事や役の見直しが急務です。

★「出会いの里みちかわ」の紹介

道の駅匹見峡に隣接する「出会いの里みちかわ」は、平成18年に「出会いの里みちかわ協業組合」を設立し運営しています。地元生産農家の新鮮野菜や原木しいたけなどの他、日用品や食料品、酒類、手作り雑貨も販売しています。

建物内には加工場が併設されており、「すずしろ市」の押しずしやおはぎ、豆腐味噌加工部の「ばあちゃん豆腐」が人気です。また、配食サービス「ぬくもり弁当」もここで調理しています。

地域の暮らしを支えると共に、賑わいづくりの拠点となっています。



旧割元庄屋美濃地屋敷



避難訓練（炊き出し）の様子



配食サービス「ぬくもり弁当」